お知らせします

令和7年度 伊豆の国市決算

市議会9月定例会で、伊豆の国市の令和7年度決算が認定されました。昨年度1年間に皆さんの税金や国・県からの補助金などが、市にどのくらい入り、どのように使われたかをお知らせします。

問 財務課 ☎055(948)1414

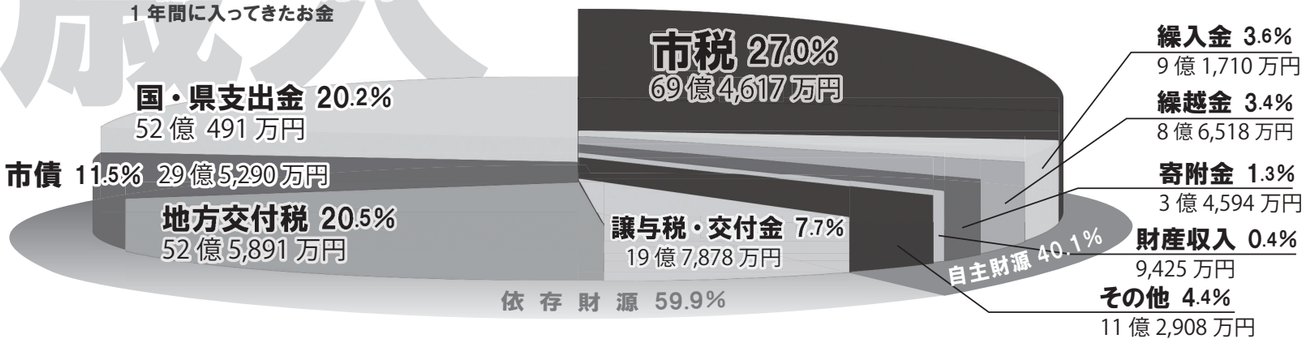
一般会計

一般会計とは、市の予算の中心となる会計で、市政運営の基本的な経費を計上しています。

歳入

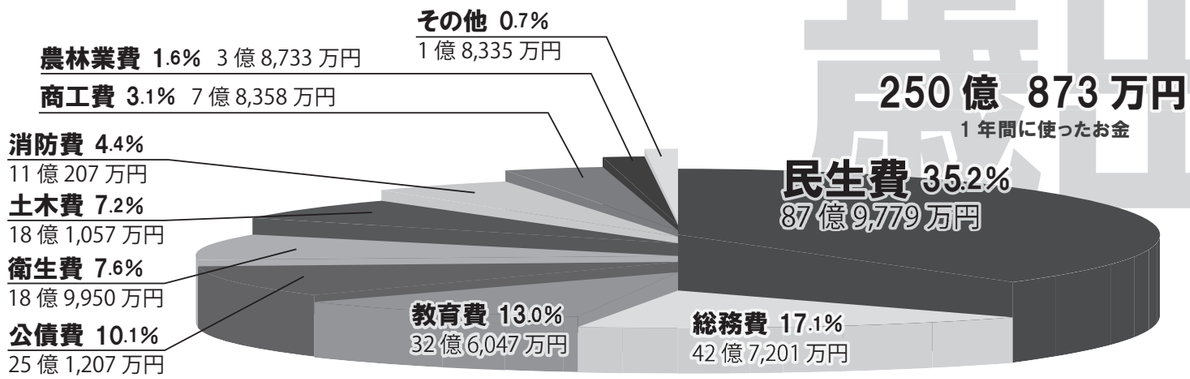
256億9,322万円
1年間に入ってきたお金

令和7年度の歳入(1年間に入ってきたお金)は、前年度に比べ、13億2,879万円の増額となりました。
- 「地方交付税」が3億7,768万円の増。
- 庁舎大規模改修事業や歴史・文化拠点施設整備事業等により「市債」が8億4,545万円の増。



歳出

250億873万円
1年間に使ったお金



令和7年度の歳出(1年間に使ったお金)は、前年度に比べ、15億948万円の増額となりました。
- 小中学校のタブレット端末購入や歴史・文化拠点施設整備事業等により「教育費」が9億1,288万円の増。
- 庁舎大規模改修事業や標準準拠システムへの移行業務等により「総務費」が5億8,083万円の増。

歳入－歳出＝6億8,449万円は、令和8年度の財源として繰り越します。

※四捨五入しているため、数値は一致していない場合があります。

市税の内訳



計 69億4,617万円

市民一人当たりの行政経費

対象人口(住民基本台帳)
令和8年4月1日現在 45,341人

民生費19万4,036円

計 55万1,570円

特別会計など

会計区分	歳入	歳出
国民健康保険	51億7,553万円	50億5,351万円
後期高齢者医療	9億 756万円	9億 449万円
介護保険	47億 559万円	46億 106万円

会計区分		収入	支出
水道	収益的	7億3,966万円	7億5,445万円
	資本的	1億4,246万円	3億9,977万円
簡易水道	収益的	1億3,039万円	1億3,162万円
	資本的	3,700万円	3,708万円
下水道	収益的	14億9,569万円	15億4,859万円
	資本的	5億 363万円	6億5,913万円

基金・市債の残高

■一般会計基金残高(令和7年度)

基金現在高	89億7,174万円
(前年度比)	△6,270万円
市民一人当たり	19万7,873円

■一般会計市債残高(令和7年度)

市債現在高	271億2,474万円
(前年度比)	＋5億7,015万円
市民一人当たり	59万8,239円

市債残高の内訳	
A	203億円
B	68億円
計	271億円

A…市債のうち、将来的に国の交付税の対象となる借金
B…市債のうち、実質的な市の借金

寄附金の使い道 (ふるさと納税制度を活用した寄附を除く)

使途の希望	寄附金額	件数	内容
教育の振興のため	1,774,100円	5件	部活動の地域展開や学校図書の充実などに活用
韮山反射炉保全のため	1,341,190円	1件	韮山反射炉3Dスキャナー測量など保存のための調査などに活用
花火大会の運営・開催のため	508,428円	2件	伊豆の国市観光イベント事業費補助金に活用
その他	5,572,000円	4件	福祉の振興や子育て支援などに活用

※令和7年度に基金へと積み立てた寄附金は、寄附者の意向を十分に考えた上で、次年度以降の事業の財源として、効果的に活用させていただきます。

【自主財源】
市税など、市が自主的に得ることのできる財源。自主財源が多いほど行政活動の自主性と安定性を確保できます。

【依存財源】
国や県などから交付されたり、割り当てられたりする財源。

財政健全性を示す指標

伊豆の国市の健全化判断比率や資金不足比率において、基準を超える数値はありませんでした。

◆資金不足比率(令和7年度決算)

特別会計の名称	伊豆の国市資金不足比率	経営健全化基準
水道事業会計	― ※	20.0%
簡易水道事業会計	― ※	20.0%
下水道事業会計	― ※	20.0%

※赤字額や資金不足額がなく、比率が算出されない場合「―」で記載しています。

◆健全化判断比率(令和7年度決算)

判断比率項目	伊豆の国市健全化判断比率	早期健全化基準
実質赤字比率	― ※	12.90%
連結実質赤字比率	― ※	17.90%
実質公債費比率	7.3%	25.0%
将来負担比率	25.7%	350.0%